

4:35 さて、その日のこと、夕方になって、イエスは弟子たちに、「さあ、向こう岸へ渡ろう」と言われた。4:36 そこで弟子たちは、群衆をあとに残し、舟に乗っておられるままで、イエスをお連れした。他の舟もイエスについて行った。4:37 すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになった。4:38 ところがイエスだけは、とものほうで、枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思われないのですか。」4:39 イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。4:40 イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」4:41 彼らは大きな恐怖に包まれて、互いに言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

5:1 こうして彼らは湖の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。5:2 イエスが舟から上がられると、すぐに、汚れた霊につかれた人が墓場から出て来て、イエスを迎えた。5:3 この人は墓場に住みついており、もはやだれも、鎖をもってしても、彼をつないでおくことができなかった。5:4 彼はたびたび足かせや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせも砕いてしまったからで、だれにも彼を押さえるだけの力がなかったのである。5:5 それで彼は、夜昼となく、墓場や山で叫び続け、石で自分のからだを傷つけていた。5:6 彼はイエスを遠くから見つけ、駆け寄って来てイエスを押し、5:7 大声で叫んで言った。「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのですか。神の御名によってお願いします。どうか私を苦しめないでください。」5:8 それは、イエスが、「汚れた霊よ。この人から出て行け」と言われたからである。5:9 それで、「おまえの名は何か」とお尋ねになると、「私の名はレギオンです。私たちは大ぜいですから」と言った。5:10 そして、自分たちをこの地方から追い出さないでくださいと懇願した。5:11 ところで、その山腹に、豚の大群が飼ってあった。5:12 彼らはイエスに願って言った。「私たちが豚の中に送って、彼らに乗り移らせてください。」5:13 イエスがそれを許されたので、汚れた霊どもは出て行って、豚に乗り移った。すると、二千匹ほどの豚の群れが、険しいがけを駆け降り、湖へなだれ落ちて、湖におぼれてしまった。5:14 豚を飼っていた者たちは逃げ出して、町や村々でこの事を告げ知らせた。人々は何事が起こったのかと見にやって来た。5:15 そして、イエスのところに来て、悪霊につかれていた人、すなわちレギオンを宿していた人が、着物を着て、正気に返ってすわっているのを見て、恐ろしくなった。5:16 見ていた人たちが、悪霊につかれていた人に起こったことや、豚のことを、つぶさに彼らに話して聞かせた。5:17 すると、彼らはイエスに、この地方から離れてくださるようお願いした。5:18 それでイエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人が、お供をしたいとイエスに願った。5:19 しかし、お許しにならないで、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。」5:20 そこで、彼は立ち去り、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、デカポリスの地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。5:21 イエスが舟でまた向こう岸へ渡られると、大ぜいの人の群れがみもとに集まった。イエスは岸べにとどまっておられた。5:22 すると、会堂管理者のひとりでヤイロという者が来て、イエスを見て、その足もとにひれ伏し、5:23 いっしょうけんめい願ってこう言った。「私の小さい娘が死にかけています。どうか、おいでくださって、娘の上に御手を置いてやってください。娘が直って、助かるようにしてください。」5:24 そこで、イエスは彼といっしょに出かけられたが、多くの群衆がイエスについて来て、イエスに押し迫った。5:25 ところで、十二年の間長血をわずらっている女がいた。5:26 この女は多くの医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまっていたが、何のかいもなく、かえって悪くなる一方であった。5:27 彼女は、イエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわった。5:28 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る」と考えていたからである。5:29 すると、すぐに、血の源がかれて、ひどい痛みが直ったことを、からだに感じた。5:30 イエスも、すぐに、自分のうちから力が外に出て行ったことに気づいて、群衆の中を振り向いて、「だれがわたしの着物にさわったのですか」と言われた。5:31 そこで弟子たちはイエスに言った。「群衆があなたに押し迫っているのをご覧になっていて、それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃる

のですか。」 5:32 イエスは、それをした人を知ろうとして、見回しておられた。 5:33 女は恐れおののき、自分の身に起こった事を知り、イエスの前に出てひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。 5:34 そこで、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」 5:35 イエスが、まだ話しておられるときに、会堂管理者の家から人がやって来て言った。「あなたのお嬢さんはなくなりました。なぜ、このうえ先生を煩わすことがありますでしょう。」 5:36 イエスは、その話のことはそばで聞いて、会堂管理者に言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」 5:37 そして、ペテロとヤコブとヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分といっしょに行くのをお許しにならなかった。 5:38 彼らはその会堂管理者の家に着いた。イエスは、人々が、取り乱し、大声で泣いたり、わめいたりしているのをご覧になり、 5:39 中に入って、彼らにこう言われた。「なぜ取り乱して、泣くのですか。子どもは死んだのではない。眠っているのです。」 5:40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなを外に出し、ただその子どもの父と母、それにご自分の供の者たちだけを伴って、子どものいる所へ入って行かれた。 5:41 そして、その子どもの手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。(訳して言えば、「少女よ。あなたに言う。起きなさい」という意味である。) 5:42 すると、少女はすぐさま起き上がり、歩き始めた。十二歳にもなっていたからである。彼らはたちまち非常な驚きに包まれた。 5:43 イエスは、このことをだれにも知らせないようにと、きびしくお命じになり、さらに、少女に食事をさせるように言われた。

## 導入

今読んだマルコの聖書個所で、イエスのご自身と御国についてさらに語っておられます。

これに対する人々の反応は、「信仰」もしくは「恐れ」でした。

1-2 章に記された奇跡は公衆の面前で行われました。

重い皮膚病患者も、友だちによって床に乗ったまま屋根から降ろされた身体の不自由な人の癒しもそうです。

これらの奇跡は、多くの人々の目の前で行われました。

それとは対照的に、4-5 章に記された奇跡は、さらに大きな奇跡で、おもに弟子たちに何かを教えることを目的としたものでした。

イエスは、聞いたことよりも見たことのほうが人の記憶に残ることをご存じだったからです。

また、私たちが耳にすることも実際の例で示されたほうが後々まで記憶に残りやすいとご存じでした。

ここでたとえを使ってお話ししましょう。

あなたは今日、初めて OIC に来たとします。

あなたはクリスチャンではありません。イエスの愛について語るメッセージを聞くために、友だちに連れられてきました。

実はあなたは、ふたつのことで悩んでいます、誰にも言っていない。

1. お金がなくて、この二日間何も食べていません。
2. 今まで、ハグなどの愛情表現を誰からも受けたことがありません。

その日あなたは、イエスの愛についてすばらしいメッセージを聞きました。あなたの罪のためにイエスが十字架上で死んでくださったこと、あなたが罪を悔い改めてイエスを信じることを神が何より望んでくださっていることを知りました。

メッセージが終わると、牧師はあなたにハグをしてくれて、牧師夫妻といっしょにお昼ご飯を食べようと誘ってくれました。

そんな状況なら、牧師の神学よりも実際の行為によって、イエスの愛を理解し、覚えているのではないのでしょうか。

自分の罪を示されたとき、主のしもべが誰か少しでも愛情を示してくれたなら、イエスの愛を確信しやすくなるのではないのでしょうか。

人は、イエスが私たちのうちに生きておられることを見て初めて、イエスを信じられるようになる、ということもあります。

マルコの福音書に記された奇跡は、弟子たちの目の前で起こりました。

けれども、奇跡を起こすことが最終目標ではありません。

これらの奇跡は、イエスと御国についての重要な真理を示していました。  
今日の個所には、3つの重要ポイントがあります。  
イエスが、自然界、悪、そして病と死を支配しておられるということです。

## 1. イエスは自然界を支配しておられる。(4:35-41節)

イエスは、ガリラヤ湖畔で小舟に乗り、多くの人々に教える忙しい一日を終えられました。その後、イエスと弟子たちだけで湖の向こう岸まで舟で行こうとおっしゃいました。ただひとつ問題は、もう暗かったことです。弟子たちの中には、元漁師の者もいましたから、夜の湖で舟を操縦するのはそれほど大きな問題ではなかったでしょう。けれども、湖に突風が吹き始めました。(37節) 波が舟に打ちつけて、舟に水が入ってきました。そのさなか、イエスは船尾のほうで寝ておられました。イエスは一日中教えて、疲れておられたのでしょう。弟子たちは、怖くなりました。舟は沈みそうです。辺りは真っ暗で、湖には嵐が吹き荒れています。ベテランの漁師でも不安になるような状態です。弟子たちはイエスを起こし、「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思われないのですか。」と言いました。(38節) イエスは起き上がって、風をしっかりとつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われました。すると、風はやんで、大なぎになりました。(39節) ここでイエスは、ふたつの奇跡を起こしておられます。まず、風がすぐにやみ、次に湖がすぐに穏やかになりました。海や大きな湖の嵐は、風がやんでから水面がなぎになるまで、8時間ほどかかることもあります。嵐のあと、海がなぐまで2-3日かかる場合もあります。私は海辺に20年ほど住んでいたもので、よくわかっています。ですから、これはまさに奇跡です。嵐が突然やんだのではなく、イエスが自然界をコントロールして驚くべき奇跡を起こされたのです。このふたつの奇跡を起こされた後、イエスは弟子たちにおっしゃいました。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」41節には、弟子たちが大きな恐怖に包まれたとあります。そして、「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」と互いに言いました。弟子たちは嵐を恐れていましたが、その恐れはイエスに対する恐れに取って代わられました。イエスは、嵐の中でイエスに助けを求めたことで弟子たちを咎められたわけではありません。弟子たちが、嵐の中でイエスを信頼できなかったことを咎められたのです。そのふたつは明らかに違います。これについては、私たちの信仰生活に当てはめて考える必要があります。

私たちの信仰生活に、このように適用できます。  
私たちの置かれたつらい状況を神が支配しておられないように思えても、神を信頼しつづけなければなりません。

聖書の話からその例を読んでみましょう。

### 葦の海を渡ったときのモーセ

出エジプト記14章には、モーセが200万人以上の人々を率いて、葦の海までやってきた場面が描かれています。エジプトで数々の災いと奇跡が起こった後、イスラエルの民は神とモーセが彼らをエジプトから連れ出し、約束の地に導いてくれると信じました。イスラエルの民もモーセも、エジプト人が後ろから追ってくるとは思いませんでした。

では、その部分を読んでみましょう。

#### 出エジプト 14 : 11-31

**14:11** そしてモーセに言った。「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。私たちをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということをお私たちにしてくれたのです。**14:12** 私たちがエジプトであなたに言ったことは、こうではありませんでしたか。『私たちのことはかまわないで、私たちをエジプトに仕えさせてください。』事実、エジプトに仕えるほうがこの荒野で死ぬよりも私たちには良かったのです。」**14:13** それでモーセは民に言った。「恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行われる【主】の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。**14:14** 【主】があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。」**14:15** 【主】はモーセに仰せられた。「なぜあなたはわたしに向かって叫ぶのか。イスラエル人に前進するように言え。**14:16** あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に差し伸ばし、海を分けて、イスラエル人が海の真ん中のかわいた地を進み行くようにせよ。**14:17** 見よ。わたしはエジプト人の心をかたくなにする。彼らがそのあとから入って来ると、わたしはパロとその全軍勢、戦車と騎兵を通して、わたしの栄光を現そう。**14:18** パロとその戦車とその騎兵を通して、わたしが栄光を現すとき、エジプトはわたしが【主】であることを知るのだ。」**14:19** ついでイスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは、移って、彼らのあとを進んだ。それで、雲の柱は彼らの前から移って、彼らのうしろに立ち、**14:20** エジプトの陣営とイスラエルの陣営との間に入った。それは真つ暗な雲であったので、夜を迷い込ませ、一晩中、一方が他方に近づくことはなかった。**14:21** そのとき、モーセが手を海の上に差し伸ばすと、【主】は一晩中強い東風で海を退かせ、海を陸地とされた。それで水は分かれた。**14:22** そこで、イスラエル人は海の真ん中のかわいた地を、進んで行った。水は彼らのために右と左で壁となった。**14:23** エジプト人は追いかけて来て、パロの馬も戦車も騎兵も、みな彼らのあとから海の中に入って行った。**14:24** 朝の見張りのころ、【主】は火と雲の柱のうちからエジプトの陣営を見おろし、エジプトの陣営をかき乱された。**14:25** その戦車の車輪をはずして、進むのを困難にされた。それでエジプト人は言った。「イスラエル人の前から逃げよう。【主】が彼らのために、エジプトと戦っておられるのだから。」**14:26** このとき【主】はモーセに仰せられた。「あなたの手を海の上に差し伸べ、水がエジプト人と、その戦車、その騎兵の上に返るようにせよ。」**14:27** モーセが手を海の上に差し伸べたとき、夜明け前に、海がもとの状態に戻った。エジプト人は水が迫って来るので逃げたが、【主】はエジプト人を海の真ん中に投げ込まれた。**14:28** 水はもとに戻り、あとを追って海に入ったパロの全軍勢の戦車と騎兵をおおった。残された者はひとりもいなかった。**14:29** イスラエル人は海の真ん中のかわいた地を歩き、水は彼らのために、右と左で壁となったのである。**14:30** こうして、【主】はその日イスラエルをエジプトの手から救われた。イスラエルは海辺に死んでいるエジプト人を見た。**14:31** イスラエルは【主】がエジプトに行われたこの大いなる御力を見たので、民は【主】を恐れ、【主】とそのしもべモーセを信じた。

モーセは苦境に立たされました。そして神に助けを求めて叫びました。神は、信仰によって前進するようにとおっしゃいました。

イスラエルの民 200 万人は、窮地に追い込まれ、ただ恐れるばかりでした。

聖書には、困難な局面でも神を信じた人々の話がたくさんあります。

ヨブは持ち物も子どもたちも健康も失いましたが、ヨブ記 13 : 15 で「神が私を殺しても、私は神を待ち望」むと言いました。

私たちはどうでしょう。

その人たちは特別だと思いませんか。

けれども、彼らは何も特別な人ではありませんでした。私たちのように普通の人でしたが、困難を恐れることなく、自然を超越する神を信じることを選びました。神は、私たちをおしてご自身のみこころを成すことができになるお方だからです。

私たちの神の恵みによって神を信頼することができますように。状況が思わしくなくても、イエスをとおして神が私たちを愛してくださるという事実に基づいて信頼できますように。イエスは私たちの罪のために死ぬほどに、私たちを愛してくださいました。このことを私たちは決して忘れてはいけません。

## 2. イエスは悪を支配しておられる。(5 : 1-20)

嵐の一件の後、イエスと弟子たちは、ゲラサ人の地に着きました。

これは、湖の対岸です。

私はこの場所を訪れたことがあります、今でも人里離れた場所です。

イエスが弟子たちと舟を降りると、悪霊に取りつかれた人が近づいてきました。

この人は墓場に住みついていて、力が強くて鎖でも縛っておけなかったとあります。

5 節には、昼も夜も山をさまよっては叫び、石で自分のからだを傷つけたとあります。

6 節には、イエスを見るや否や、この人はイエスを拝んで、「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのですか。」と言ったとあります。

そして、「神の御名によってお願いします。どうか私を苦しめないでください。」と言いました。

8 節で、イエスは「汚れた霊よ。この人から出て行け」と言われました。

9 節で、「おまえの名は何か」とお尋ねになりました。

すると、「私の名はレギオンです。」と答えました。

ローマのレギオン、つまり軍隊は一部隊が 6000 人でした。

12 節には、悪霊たちが豚に乗り移れるようにイエスに懇願したとあります。

イエスがそれを許可なされると、突然 2000 匹の豚が崖から飛び降りてガリラヤ湖でおぼれました。

これは、悪霊に取りつかれた人にとってすばらしい出来事でした。悪霊はその人を去り、その人はすっかり正気に戻りました。

けれども、豚の世話をしていた人たちにとっては、すばらしい出来事ではありませんでした。豚を 2000 匹も失ったからです。

そのいきさつを豚の飼い主になんと説明すればよいのでしょうか。

豚の世話をしていた人たちは町に行き、雇い主や町の人々にこの出来事について話しました。

町から人々がやってくると、そこでは「レギオン」と呼ばれた悪霊に取りつかれていた人が正気に戻っているのを見ました。人々は非常に恐れしました。

イエスを信じないで、恐れしました。

町の人々は、イエスに町から出ていってくださるようお願いしました。

それほど怖がっていたからです。

イエスと弟子たちが舟に戻ると、レギオンと一緒にいきたいと申し出ました。

この人は、もはや悪霊に取りつかれた人ではありません。新たな人になりました。

イエスは、この人を支配していた悪霊を追い出し、彼の人生を変えました。

この人が弟子たちに加わるのをイエスが許してくださるだろうと思える状況です。

しかし、イエスはこうおっしゃいました。

「あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。」

20 節で、この男性はイエスの命じられたことに従い、イエスがしてくださったことを人々に伝え始めました。

その地方の人々は、この人がこれほど変わったことに驚きました。

では、このお話から私たちに応用できる事柄について考えましょう。

これはとても大切です。

ひとつめの奇跡では、イエスのことばが嵐をやませました。ここでは、もうひとつの奇跡に、イエスのことばの持つ力が示されています。

イエスは、「汚れた霊よ。この人から出て行け」とおっしゃいました。

この奇跡は、イエスが悪霊や悪魔をも支配するお方であることを明らかにします。

イエスはサタンよりも偉大なお方です。イエスは、サタンを破り、サタンから人々を救い出すために来られました。

#### エペソ 1 : 19-23

**1:19** また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。 **1:20** 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、 **1:21** すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。 **1:22** また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。 **1:23** 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

ここで非常に大切な真理があります。

祝福されたクリスチャンになる秘訣とは、サタンの嘘ではなく、神のみことばである聖書を信じることです。

ヨハネ **8:44** あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

ヨハネ **8 : 32** は、「そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」と語ります。

クリスチャンの力は、聖書の真理を信じる信仰にあります。

つまり、「キリストを心から信じる信徒について聖書が語る事柄」です。

これに対し、サタンの力は、サタンの嘘にあります。

パウロはコリント第二 **10 : 3-6** で、すべてのクリスチャンのうちに霊の戦いが起こっていると云います。

それは、私たちの思いの支配権を奪い合う戦いです。

#### コリント第二 **10 : 3-6**

**10:3** 私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。 **10:4** 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。 **10:5** 私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてののはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、 **10:6** また、あなたがたの従順が完全になるとき、あらゆる不従順を罰する用意ができています。

サタンが私たちの思いを支配できれば、私たちの行動にも影響を及ぼせるようになります。

悪魔は私たちの思考にあらゆる思いを差し込んできます。

その悪魔のささやきに耳を貸すと、私たちの行動パターンや思考パターンがサタンに感化されてしまいます。

勝利を収めるクリスチャン生活の秘訣は、サタンとその嘘に「ノー」と言えることです。そして、神のみことばがクリスチャンについて語る事柄に「はい、そうです」と言うことです。

ずいぶん簡単に聞こえますが、これが実際にはたいへんな戦いです。

サタンに対抗する最大の力は、神のみことばを信じることです。

ですから、どんな内容であれ、神のみことばに明らかに合わないアドバイスをしてくるような人には気をつけなければなりません。

神のみことばがこうと言えば、それが真理です。誰が何と言おうとそうなのです。

最後に、3 つめの奇跡です。

### 3. イエスは、病と死を支配しておられる。(5 : 21-43)

21 節には、イエスが舟で湖の対岸に渡られたとあります。

そこには、ヤイロという人がいました。彼は、ユダヤの会堂管理者でした。

ヤイロは、娘が危篤でとても不安になっていました。それで、家に来て娘を癒してほしいとイエスに頼みました。

イエスは、娘を癒すためにヤイロと出かけられました。

その途上、12 年間も不正出血に悩まされている女性がイエスの着物に触りました。

信じてイエスの着物を触ると、すぐさま彼女は完全に癒されました。

イエスは、ご自身の力が出ていったことを知って、「だれがわたしの着物にさわったのですか」と言われました。

癒された女性は白状し、イエスにすべてを話しました。

34 節で、イエスは女性に向かって、「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」とおっしゃいました。

この話からどんなことを学べるでしょうか。

大切なことがふたつあります。

- a) イエスは唯一、医療の力が及ばない場合でも私たちの身体を癒す力をお持ちです。  
医学は日々進歩していますが、すべての病気から救ってくれるわけではありません。
- b) 癒してくださるのはイエスだと信仰を置くことが、イエスの奇跡を起こす力につながります。

癒しを祈ったすべての人が癒されるわけではないことは明らかです。

それがこの世で生きる現実です。

しかし、どんな状況であれ、もしそれが神のみこころであるなら、癒しを受け取ることが可能にする道はイエスの力を信じる信仰です。

この女性が癒された後、イエスはヤイロの娘が死んだと聞かされました。

イエスはそれを聞いて、「恐れなくて、ただ信じていなさい。」と会堂管理者におっしゃいました。

そして、ペテロとヤコブとヨハネだけを伴って、子どもの両親といっしょに行きました。

彼らが家に入ると、女の子は死んで横たわっていました。

イエスは「少女よ。あなたに言う。起きなさい」とおっしゃいました。

するとすぐに、女の子は起き上がって歩き始めました。そこにいた人々は、この奇跡に驚嘆しました。

イエスは人々に、この奇跡について誰にも言わないようにと命じ、少女に何か食べさせるようにと指示されました。

最後の奇跡は、イエスが死を支配されることを示します。

私たちがイエスを信じると、死を恐れる必要はなくなります。

イエスはヨハネ 11 : 25 でおっしゃいました。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」

死は誰もが話したがらないトピックですし、考えたくもないという人がほとんどです。

けれども、イエスを信じるクリスチャンは、死を恐れる必要はありません。

聖餐式に与るとき、私たちはイエスとその御業を覚えて祝います。イエスが私たちの罪のために死んでくださり、私たちがイエスとその御業を信じることによって、私たちは罪赦されただけでなく、永遠をイエスとともに天国で過ごせるのです。

今日、聖餐式を祝うとき、恐れではなく信仰を持ちましょう。